



地域研究（欧州）

（7月23日）

1. EUと第3国の連合協定

EU は EU 内だけではなく、周辺のヨーロッパ諸国とも経済統合を進めている。（ア）（EEA）の設立や、スイスと個別に多数の協定（条約）を締結していることがその例にあたる。さらに、第3国との間に特別な関係を築くことを目的とし、多くの協定を締結しているが、その内、旧植民地の発展を支援したり、将来の EU 加盟を見据え、第3国を支援するために締結される協定を連合協定と呼ぶ。

① 旧植民地との連合

いくつかの EU 加盟国（フランス、ベルギー、オランダなど）は、主としてアフリカ大陸に植民地を保有していたが、旧植民地の発展を支援するため、1964年、EU（当時は EEC）はカメルーン的首都ヤウンデで、17のアフリカ諸国およびマダガスカルと協定を締結した。この連合協定は締結地になみヤウンデ協定と呼ばれるが、有効期間は5年に限定されていた。そのため、後にヤウンデⅡ協定が締結された。

多くの植民地を持っていたイギリスが EU に加盟するようになると、EU は、1975年、ヤウンデⅡ協定に代わり、ロメ協定を締結した。トーゴの首都ロメで締結された、この新しい協定には、アフリカだけではなく、カリブ海および太平洋上の46ヶ国（ACP 諸国）が参加している。この協定は4回更新され、25年（1975～2000年）に亘り適用されたが、1989年の東西冷戦終結や急速に進むグローバル化に対応した新しい協定の必要性が認識されるようになり、2000年、ベナンの首都コトヌーで新しい連合協定が締結され、現在に至っている。

コトヌー協定には、アフリカ、カリブ海および太平洋上の（ACP 諸国）76カ国と、EU およびその加盟国が加盟しているが（同協定は、EU が権限を有さない政治対話についても定めているため、EU とその加盟国が共同で締結している）、パートナー国に貿易上の特権を与えるとともに、欧州開発銀行の財政支援を通してその経済発展を支援すること、また、政治対話によって、人権の尊重、法の支配や国政の健全化を促すことなどを目的としている。

コトヌー協定は、政治的最高機関として、閣僚理事会を設けているが、同機関は大使部会によって保佐される。また、欧州議会議員と ACP 諸国の国内議会議員で構成される議会が設置され、諮問権限が与えられている。

② 旧東側諸国との連合

東西冷戦崩壊後、EU は旧東側諸国、特に、ユーゴスラビアから独立した国々と連合協定を締結し、その民主化、法の支配、経済発展を支援している。この協定は、旧東側諸国の EU 加盟を支援する目的も持つ。

東西冷戦終結後、ソ連は解体し、多数の独立国家が生まれた。その内、エストニア、ラトビア、リトアニア（これらを**バルト 3 国**と呼ぶ）は、すでに 2004 年 5 月の（ イ ）時に EU に加盟しているが、その他の国も EU ないし「西側」との結びつきを強化している。このような旧総連構成国の「ヨーロッパ化」にソ連を承継したロシアは、自国の安全が脅かされるとして反発しているが、ウクライナとの間では軍事的な衝突まで発生している。

ウクライナは、6 年間の交渉の後に、EU と連合協定を締結している。同協定の発効は、EU、その全ての加盟国とウクライナによって批准されることを要するが、2016 年 4 月、オランダでは国民の呼びかけによって国民投票が実施され、批准反対派が賛成派を大きく上回った（反対派 64%、賛成派 34%）。それを受け、オランダは批准を見送っているため、ウクライナとの連合協定はまだ発効していない。

なお、2013 年 11 月、ウクライナ政府は、ロシアの圧力を受け、協定の締結を断念した。これにウクライナ国民は反発し、同国のヤヌコービッチ（Janukowytsch）大統領は解任された。その後、新しい大統領によって協定は締結されたため（しかし、前述したように、まだ発効していない）、2 国間関係は悪化し、ロシアがウクライナ東部を軍事的に占拠する状態が続いている。

2. ヨーロッパの安全保障体制

第 2 次世界大戦後、ヨーロッパは東西に 2 分され、安全保障体制の確立が重要な政治課題となった。西欧 5 ヶ国（フランス、イギリス、ベルギー、オランダ、ルクセンブルク）は、旧敵国ドイツやソ連の攻撃に備えるため、1948 年、**西欧同盟（WEU）** という防衛機構を設けた。また、1949 年には、これらの 5 ヶ国を含む西欧 10 ヶ国と米国、カナダによって**北大西洋条約機構（NATO）** が創設された。これを受け、ソ連は旧東側諸国と**ワルシャワ条約機構**を設立し、「西側」に対抗した。

1950 年に朝鮮戦争が起きると、東西対立は激化し、米国は西ドイツの再軍備を提案したが、フランスの反対によって実現しなかった。その代替案として、フランスは**欧州軍事共同体**の設立を提唱し、1952 年 5 月には設立条約が締結されたが、後に方針を改め、同共同体の設立を阻止した。代わりに、すでに 1948 年に設立されていた**西欧同盟（WEU）** が改組され、ドイツも加盟できるようになった。

（ ウ ）年に東西冷戦が終結すると、ソ連より独立したバルト 3 国、つまり、（ エ ）（ オ ）（ カ ）はワルシャワ条約機構を脱退し、NATO に加盟した。また、東欧諸国もワ

ルシャワ条約機構を脱退し、NATO に加盟した。これを **NATO の東方拡大** と呼ぶ。冷戦期、東欧諸国は、「西側」とソ連の緊張を和らげる意義を持っていたが、東欧諸国が NATO 側に移ったことで、ソ連は NATO 加盟国と国境を接するようになった。ソ連を承継したロシアは、自国の安全保障が脅かされるとし、NATO の東方拡大に反発している。

問題

- 1 文章内の空欄ア～カに適語を入れなさい。
- 2 EU の連合協定はどのような目的で締結されているか説明しなさい。
- 3 EU・ウクライナ間の連合協定はまだ発効していない。その理由について説明しなさい。
- 4 ソ連を承継したロシアは NATO の東方拡大をどのように捉えているか説明しなさい。
5. 1952 年に設立された欧州石炭・鉄鋼共同体の原加盟 6 ケ国の中には、西欧同盟 (WEU) の原加盟国ではない国があるが、その国を挙げなさい。また、西欧同盟 (WEU) の原加盟国にならなかった (なれなかった) 理由を説明しなさい。